

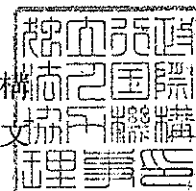


JICA (PC) 第12-06005号

平成19年12月6日

環境社会配慮審査会
委員長 村山 武彦 殿

独立行政法人 国際協力機構
理事 黒木 雅文



環境社会配慮審査会への諮問について

JICA 環境社会配慮ガイドライン2.4の規定に基づき下記事項につき諮問いたします。

記

1. 件名

諮問第8号「エジプト国カイロ高速道路優先区間フィージビリティ調査」

2. 諮問事項

エジプト国カイロ高速道路優先区間フィージビリティ調査にかかる
スコーピング及び代替案の検討

3. 資料・報告書

「エジプト国カイロ高速道路優先区間フィージビリティ調査」にかかる代
替案の検討、スコーピング案及びEIA調査日程

以上

平成 20年 2月 13日

独立行政法人 国際協力機構
理事 黒木 雅文 殿

環境社会配慮審査会
委員長 村山 武彦

諮問第8号に対する答申について

環境社会配慮ガイドライン2.4の規定に基づき、諮問第8号「エジプト国カイロ高速道路優先区間フェージビリティ調査」（開発調査）のスクーピング及び代替案の検討について、別紙のとおり答申いたします。

答申内容を協力事業に反映するよう、お取り計らい下さい。

エジプト国カイロ高速道路優先区間フィージビリティ調査
答申

代替案の検討

1. 事業目的を明示し、その目的達成のために高速道路を選択するに至った代替案の検討内容、経緯を示すべきである。

環境影響調査

2. 本件調査で実施する大気、騒音、振動等の実査がエジプト国内法上妥当なものであることを記述する必要がある。
3. 一部の環境影響に関して、事前調査時より評価に変更があった項目について、その理由を記述すべきである。
4. スクリーニング、スコーピング段階において、建設時の影響が強調されており、道路供用後に発生する影響の位置づけが明確でない。この点を明らかにし、特に、大気汚染や騒音・振動等の物理的な環境項目への配慮を明確にする必要がある。
5. 選定されたルートによっては、沿道に中層以上の建築物が立地していることが想定される。そのため、高架道路を建設する区間においては、地上だけでなく中層階以上の大気汚染や騒音の状況を把握すべく調査を実施すべきである。

大気質調査

6. 調査内容（測定地点、測定項目、測定方法、測定主体、測定結果、測定日時、既存データがあればその内容）を採用した環境基準値等とともに一つの表にまとめることが望ましい。また、その内容が地域特性との関連において必要・十分である理由を記述する必要がある。
7. 調査項目の単位を変換する場合はその根拠を示す必要がある。
8. 鉛による大気汚染に関する記述がないので、要否の検討結果も含め追記する必要がある。

自然環境

9. 自然保護分野に関して、地域の特性との関連で調査の要否、内容等が適切であること

とその根拠について記述すべきである。

温暖化ガス

10. 本事業の実施に伴う交通量の増加と渋滞緩和等を考慮した温暖化ガス排出量の変化について可能な範囲で検討すべきである。

ステークホルダーの確認・協議

11. 大都市中心部の事業でありステークホルダーは多岐多数である。全てのステークホルダーとの対話は不可能であるため、ステークホルダーの絞込みの基準等を適切に設定し、明らかにすべきである。

12. 環境社会影響を把握するための周辺住民への調査では、被影響住民全体に対する対象者の位置づけ、すなわち沿道からの距離や社会的な属性などを明確にすべきである。

13. 今後実施するステークホルダーミーティングにおいては、参加者の構成、意見の概要等が把握できるよう記録する必要がある。

住民移転

14. 現計画では住民移転の影響はないとされているが、いずれかの代替案によって移転が必要な住民が存在する場合には、影響の調査を行うことが可能な枠組みにしておく必要がある。

以上